自治連だより

第20号

新年明けましておめでとうございます

会長 渡邊勘治郎

皆様には、平素より自治連の諸活動に格別のご理解ご協力を賜り有り難く、心より感謝申し上げます。

さて、国が地方創生を掲げてから早二年、その成果も地方には届かず、依然として中山間地域等の人口減少に歯止めが掛からない状況の中、各地区や町内会では、市街地・農村部を問わず、それぞれ地域の文化や資源を生かした特色ある活性化活動を展開され、安全・安心なまちづくりにも積極的に取り組まれるなど、自らの手で「住み良い・住み続けたい」地域づくりを推進されている状況を見聞するに付け心強く思い、深く敬意を表する次第でございます。

昨秋、安倍総理は「一億総活躍社会」の実現を目指すとし、地域創生の核となる地区自治会や町内（区）会の重要さを新たにされ、地方の声に徹底して耳を傾け、熱意ある地方創生を応援すると公言しています。

本市でも、地方創生総合戦略を策定され、即座に市民総参加で地方創生に取り組まれることと思います。そのためにも、地域の声を行政へ届ける地区自治会や町内会等の存在は、今後、ますます重要となることは明白です。

皆々様のご多幸をご祈念し、ご活躍をご期待いたしまして、新年のご挨拶といたします。

末恒地区

ふれあいを大切に 地域力アップ

末恒まちづくり連絡協議会
会長 田中雅勝

当地区は日本海・湖山池・山並みに接して自然環境に恵まれ神話の地「白兎」、県の無形民俗文化財指定の三津地区の「石がま漁」、白兎・小沢見の「海水浴場」など観光資源にも恵まれています。また、多くの福祉施設・学校があり、県東部環境クリーンセンター「リファーレンいなば」もあります。

末恒駅での挨拶運動

この様な地域性から、当地区の目指す地域づくりのコンセプトは、「**郷土を愛し、人と環境（自然）にやさしい、安心・安全な魅力あるまちづくり**」としています。

まちづくり協議会は、平成二十七年五月一日よりまちづくり連絡協議会として専門部制から委員会制へと移行しました。

これは当初のまちづくり計画の柱は**あるべき姿**とし、各団体の自主性と独自性をより重んじ、地区のまちづくりに関する横断的な事業に関しては必要に応じて実行委員会を発足させ実効性をあげるほうが、継続性と地域力がよりアップすると考えるからです。まちづくり連絡協議会としては、「**コミュニティとふれあいの場**」、「**人材を含めた、あるもの探しと活用**」のネットワークづくりに重点を置く事にしました。

まず、挨拶と顔見知りになることが全ての基本、高校生のマナーアップ運動とは別に朝の通勤・通学時の**末恒駅での挨拶運動**を数年来実施し、各団体の参加者が年々増えています。また、**春・秋の末恒海岸一斉清掃**を数十年継続中で、日曜日の早朝より各々八百人超の大人と子供が参加、挨拶と爽やかな汗で、東西一・一キロの環境資源の保全に努めています。さらに、地区の三大事業（地区大運動会・地区公民館まつり・地区敬老会）に加え、平成二十六年から**地区ふれあいフェスティバル**が加わり、昨年は**防災&納涼祭**、本年は**大文化祭**を二日間にわたり実施し、大盛況で好評でした。

まちづくり芝生化助成事業では白兎区長を実行委員長とし、白兎広場を芝生化しました。

春・秋の末恒海岸一斉清掃

神戸地区

かんど夏祭りで地域を元気に

かんど地域づくり協議会
会長 栗本保夫

かんど地域づくり協議会は地域の活性化を計るべく平成二十一年三月に立ち上げました。主な事業として「地域活性化事業」、「防災事業」、「さくら山整備事業」、「せせらぎ公園整備事業」、「文化祭事業」等を行っています。その中で今回は「地域活性化事業」として行っています【かんど夏祭り】を紹介します。

神戸は鳥取県で最大の桃の産地です。それを活かして地域を盛り上げようと平成十一年に【神戸もも祭り】を始めました。それを引き継ぎ発展するかたちで【かんど夏祭り】として開催しました。今回で十七回目となります。

地区外からも沢山の方にお越し頂きました。開場後に人気の規格外桃の抽選券を順次手渡しします。規格外桃は形は不揃いだが味は同じでお安く提供出来ますので毎年大変人気があります。引き続き食品販売を開始、地元手作りのおこわ・桃シャーベット、鳥取畜産農協の焼きソバ、酒津の焼き鯖、そして小学児童が育てた夏野菜も販売しました。

イベントのオープニングは神戸小学生、一年生～六年生までの総勢三十三名による砂見太鼓の元気な演奏を楽しんでいただいて、メインの朝どれ桃の販売を開始しました。並行して抽選を行い皆さんに楽しんでいただけたと思います。準備や運営は苦労もありますが、皆さんから元気を頂きました。又、小学生にはとても良い社会学習が出来ていると学校の先生からも言って頂いています。これからも継続して地域を少しでも盛り上げてゆきたいと思います。

にぎやかに販売開始

小学生もがんばりました

用瀬地区

地域の宝、和の力

大村地区まちづくり協議会
会長 谷村萬吉

用瀬町は、大村、用瀬、社の三地区からなり、平成の大合併を経て、平成二十一年から順次「まちづくり協議会」を設立した。

従来通り、各種団体の活動を町一本で継続するものと、新しくまち協に位置づけるものと仕分け、更に従来の三地区公民館活動との整合を図りながらの設立であり、現在それぞれ独自の活動を行っている。大村地区まちづくり協議会では「みんなでつくる古里大村」を合言葉にして、七項目の活動事業を制定して各種団体への協力、育成、調整、並びに独自事業への取り組みを実行中、今回は一例のみ紹介する。

赤波川渓谷おう穴群

鷹狩駅から上流に約六kmの地点、千二百米の区間に形成されたおう穴群で地域づくりの手はじめに「地域の宝」として位置づけ取り組み中で経過の一部を紹介する。

平成三年頃から、地区でのウォークを開始、同じく住民による整備作業が始まり継続されて来た。平成五年、六年には教育委員会による調査が終了し、平成十六年、十七年には「緑の募金記念植樹」を行い、併せて地域全体からなる奉仕作業が始まり、多くの皆様の参加を得て現在継続中である。

他方平成十八年から「森と水に親しむおう穴祭」を開催し、地元住民の参加をベースに「千代川上流、下流の交流事業」として今年で九回目をむかえた。

又、洗足山より湧出する名水と相まって夏休み中には保育園児や小学校の親子連れが多数自然と親しまれ、更に写真や画材の対象として、或いは昆虫、蛾類の観察や、水温十六度前後の超軟水と認定されている名水を求めて、近辺はもとより県外からも来訪者多く、今後とも地域が掘り起こした地域の宝として、大切に整備、活用したいと思う。

子供の元気な声が響く赤波川渓谷おう穴群

整備作業を終えて

醇風地区
「まちづくり協議会」の活動について

醇風地区まちづくり協議会
会長 細田利行

醇風地区まちづくり協議会は、平成二十一年三月二十七日に設立総会を開催し、活動を開始しました。

まちづくり協議会は、自治連合会を中核として、十六の団体で構成されています。発足前のアンケート調査から、醇風地区の地域課題をしぼり、四つの専門部を設けてまちづくりに取り組んでいます。

それでは、各専門部の活動目標と活動内容を紹介します。

総務部

～みんなが参加し、強い絆で結ばれるまちづくり～

地域挙げての「ふれあいまつり」「防災訓練」「醇風夜ざくら道路」を企画・実施しています。地区の三大行事として定着し、他地区にも知られるものとなってきています。

安全・安心・環境部

～安全・安心で美しい環境のまちづくり～

防災マップ作成チームと、全町内会長の協力を得て、正に地域の総力を結集して「防災マップ」を完成させました。常に手の届くところに備え、日々活用していきます。

夏季休業中には土曜夜市の見回りを、日常の児童、生徒の安全確保のために、登下校時に見守り活動・交通安全パトロールにも力を入れているところです。

福祉・健康部

～健康増進と支え合うまちづくり～

車いす利用者も楽しく参加

地域の健康づくりと、支え合いの活動を推進するために「桜の下を歩こう会」「ふれあいの旅」「運動能力測定」を開催しています。障がいのある無し、年齢が高い若いに関わらず、誰もが参加し、思いやりの気持ちを持ち、支え合っていく、住みよい地域づくりを進めていきます。

ふれあい・人づくり部

～豊かなふれあいと地域に誇りを持つ人づくり～

「醇風夜ざくら道路」を通して醇風小学校児童や保育園児、さらには地域の方々とのつながり・絆を深め、心豊かで温かい地域社会の構築を目指しています。

地域の宝であり、市民の憩いの場である袋川の桜土手を醇風小学校全児童の絵（一～四年生）と川柳（五・六年生）をボンボリにし、夜間点灯して彩ります。また、地域の方々の制作による和紙灯りも満開の桜をさらに美しいものにしています。

桜土手を彩る和紙灯りとボンボリ

《終わりに》

醇風地区は、鳥取市街地の中では高齢化が進んでいます。（平成二十七年は約三十三％）

そのため、さらに高齢化対策が急がれます。例えば地域ケアで、見守り、声掛け等を福祉関係者と連携して取り組むことも考えています。

平成二十七年度
三市姉妹交流会の概要報告

岡山市連合町内会、姫路市連合自治会および鳥取市自治連合会の三市姉妹交流会が、平成二十七年九月二十四日姫路市の播磨国総社会館にて開催されました。同交流会は今年で九年目を迎え、鳥取市から十七名、三市合計六十六名が参加しました。

第一部の協議会では、三市の会長挨拶に続き、来賓の石見姫路市長から祝辞が述べられ、その後、「自治会・町内会の当面の課題とその解決に向けた取り組み」を共通議題として話し合いが行われました。

まず岡山市から、女性の視点を町内会の運営と事業に反映させ、組織の充実と強化を図るため、連合町内会の中に男女共同参画専門部会を設置し、種々活動を行っていることが報告されました。次いで鳥取市から、福部町にて進められてきた「幼小中一貫校」の開校に向けた取り組みの経過が説明されました。さらに姫路市からは、連合自治会の地域活動拠点整備に関する経費が市の予算に組み込まれたことの報告がありました。

以上の三件の取り組みや課題の報告を受けて、全体で協議に移りました。しかしながら、この三課題はそれぞれ非常に多くの重要な問題を含んでおり、解決への取り組みは単純ではありません。そのため、数点の質問や意見が散発しただけで、議論が深まらなかったのは残念でした。協議会の時間には制約があるので、もう少し焦点をしぼった話題提供と意見交換になれば望ましいと感じました。

その後、昼食会と歓談、および姫路城等の視察研修を行い、交流会の行事は終了しました。

（報告　成瀬廉二）

福部地区
海士フォーラム in 福部

海士を元気にしよう会
代表 山本輝彦

福部まちづくり協議会は活性化に向けた地域活動を広く広報することとしており、今回海士を元気にしよう会が主催した内容を紹介させていただきます。

平成二十七年十月十日、福部町中央公民館において「海士フォーラムin福部」を開催しました。これは鳥取市過疎地域・中山間地域人材育成事業「とっとりふるさと元気塾」のテーマ別専門講座のうち、集落活性化・地域コミュニティの強化のうちの一講座として、海士を元気にしよう会が主催者となり、海士集落という地名が古代日本における海の民〟とでもいうべき人々が残した国際的な交流の跡であることから、海士集落の知られざる歴史を探り、集落の活性化や地域コミュニティの強化に活かそうとして、「～古代日本海の文化交流から学ぶ～福部町海士の歴史と海の民の足跡をたどる」をテーマに開催したものです。

海士フォーラム in 福部

当日は二本の講演とパネルディスカッションが行われました。まず一本目の、伯耆の古代を考える会の黒田一正氏の「海をめぐるさまざまな交流を考える」と題した講演では、福部町における海部と服部の重なりは、海の民と機織りの民の深い因縁を語っており、その系譜は米子の安曇族をはじめとして全国各地に広がっているという内容でありました。次いで二本目の、青谷上寺地遺跡展示館・あおや郷土館館長の河根裕二氏の「海の交流と青谷上寺地遺跡」の講演は、青谷・福部の両地とも海と陸のルートが交差する拠点として繁栄してきたものと思われるとの内容でありました。その後、地元の服部神社宮司、鳥取市埋蔵文化財センター調査員、海士を元気にしよう会代表の三氏も加わったパネルディスカッションでは、それぞれの立場から地域の活性化に資するために必要な思い等に関する熱心な討論が行われました。フロアからの積極的な発言もあり、地域の隠された文化を再発見することにより、自分たちの住む地域に自信と誇りを持って活性化・コミュニティ強化に取り組むことの必要性を痛感させられました。福部町内外からの参加者約八十名も、予定時間を大幅にオーバーする熱気の内に満足して終了したフォーラムでした。

（文責　海士を元気にしよう会
代表　山本輝彦）

美保地区
楽しきかな わが町

美保地区自治会
会長 安木恭次

美保地区には、自治会とまちづくり協議会があります。自治会長とまちづくり協議会の会長は兼任しており、何かと便利な部分があります。又地区内の世帯数五千二百余り、人口は約一万人が住んでおり、美保南地区と分離してからは次々と新しい町内会が発足し現在の町区数は二十六町区に達しました。

当地区では以下のようなイベントを行っております。一月地区互礼会、五月地区大運動会、七月地区納涼祭、十月名月とジョイントコンサート、十一月ふれあい文化祭と盛り沢山です。ここでは、運動会及び納涼祭についてご紹介します。運動会の主催は自治会ですが、実働は地区体育会にお世話をいただいております。数ヶ月前から会場の確保を行い、一ヶ月前に自治会と関連団体との打合せなど、綿密な計画に基づいて実施にこぎつけます。内容は、子どもから高齢者までが参加できる種目としております。圧巻は、年代別リレーで午前中に予選、午後種目終了前に決勝が行われます。最後は、成績発表があり、総合の部には優勝旗と賞状、年代別リレーの部には優勝カップと賞状が授与されます。その後の祝勝会、祝敗会は想像するに難くないです。

運動会

次にまちづくり協議会主催の地区納涼祭についてです。七月最終土曜日に開催をしております。開会セレモニーでは、地区選出の県会、市会議員各位と近年は鳥取市長もご参加いただいております。午後五時半開会で、各種団体による出店が多数と子ども達が遊べるスペース等来場者が楽しめるものが多く有ります。千人を上限に抽選券が発行され、最後まで楽しみの多い納涼祭です。毎年千人以上の来場があり、地区の一大イベントとなっております。又、年々内容に検討を加え魅力のある納涼祭にしていきたいと思っているところです。いい忘れましたが、まちづくり協議会に対し、鳥取市から助成を頂いている中で昨年は、納涼祭の横断幕、今年は、櫓を新調し、より便利で簡単に段取りが出来るなど用具の改善等に力を入れて行きたいと思っているところです。ともあれ人口の多いこの美保地区で様々な行事を通じて、地区民全体の連携を図ってよりよいまちづくりを目指して行きたいと思っております。

納涼祭

下関市連合自治会の訪問団を迎えて

下関市連合自治会から「まちづくりの課題」について、鳥取市と懇談し解決の糸口を得たいという申し出があり、10月7日午前市庁舎6階会議室で意見の交換を行った。

相互の会長と深澤市長の挨拶の後、下関市から事前に数項目の質問事項が寄せられていたので市協働推進課の課長補佐から市全体に係わる「まちづくり協議会の設置区域並びに事務局の体制等について」説明があり、続いて、米里・中ノ郷・福部のまちづくり協議会の取り組みの現状について紹介し意見の交換を行った。

意見交換の中で、下関の方から「まちづくり協議会事務局の担当者は誰がしているのか」「地区公民館とまちづくり協議会の関係について」の質問が集中し「まちづくりの活動は軌道に乗りつつあるように受け止めるが、地区公民館の職務が多忙になってはいないか」「公民館としての本来の役割が十分に果たされているのか」「成功の鍵は館長の姿勢にあるのでは」「地区公民館は社会教育法の基にあって生涯学習の場であり、まちづくり協議会の拠点になりえないのではないか」等の意見が寄せられた。

特にまちづくりの活動の中に、今後若者や女性を『どう呼び込んで行くか』共通した課題が提起された会でもあった。（文責 岡田一壽）

大正地区

安全・安心な地域づくりに向けて

ほっと大正まちづくり協議会
会長 西根俊一

ほっと大正まちづくり協議会は、平成二十一年五月に設立しました。

当協議会は、地域住民が主役となり、多様な世代の住民が共に手を携えた協同・共助による安全・安心なまちづくりを基本理念として活動しています。

事業内容は**運動会、夏まつり**など住民の絆づくりを進める一方で、特に安全・安心に係るものとして次の事業を行っています。

河川氾濫を想定した避難訓練

○住民の地域に向ける目を増やす（関心を高める）活動

住民の地域に関する関心度を高めることにより、お互いが見守り、見守られているという安心感に包まれた、また、犯罪が起こりにくい地区にする。

【花栽培】プランターや花壇での花栽培

【青色回転灯・防犯灯の設置】ソーラー発電により、夜間に点灯

【あいさつ運動の実施】地区として、あいさつ運動実施アピールを作成し、本年十月からあいさつ運動を推進

○防災・減災に関する活動

住民個々が防災等に関する知識を深め、災害時に適切に行動できる環境をつくる。

【総合防災訓練】地震、洪水等を想定した避難、救助、炊出し等の訓練を毎年度実施

【防災マップ作成】特に震災時に必要となる情報を掲げた、集落ごとの防災マップを平成二十三年四月に作成

【千代川氾濫を想定した浸水深表示板の設置】集中豪雨、台風等に伴う千代川水系の氾濫時に想定される浸水深表示板を平成二十五年三月に集落ごとに設置

【避難行動要支援者支援制度への登録推進】災害時要援護者支援制度が平成二十六年度に現在の制度に変更されたことに伴い、改めて新制度の周知と登録への呼びかけ

ふるさと鳥取市・回帰戦略連絡会

お父さん、お母さんへ Uターン支援登録制度の紹介

鳥取市は十月二十三日、人口減少の歯止めを目指し、Uターン促進の強化として、官民連携の連絡会を立ち上げました。本市自治連も鳥取市の振興発展に寄与するため、連絡会に加盟いたしました。今後は本会と連携を図って活動に取り組みます。

進学、就職で県外に転出した若者などを本市に呼び戻しましょう。「しごと」、「住まい」など幅広い情報が鳥取市から提供されます。

◎問合せ先
鳥取市定住促進・Uターン相談支援窓口
〇一二〇―五六七―四六四（フリーダイヤル）

湖山地区

「湖山駅前三区町内会」その活動について

町内会顧問 邨上啓子

本町内会は、昭和六十年代に開発された新興住宅地にあり、開発時には、幼い子供たちを連れた若夫婦の建てたマイホームが多く、一時は、子ども会に五十人ものメンバーがいたとのこと。当初は若く活気のある住宅地でした。

現在では、八十五世帯、二百七十人の住民が暮らす老齢化の進む町内となりました。

そんな歴史の中、住民の悲願は何と言っても「集会所」の建設でした。何度かの計画が立てられた後、実現したのは平成二十六年十月で、住民の熱意と市の強い協力があってのことでした。

防災運動会

竣工式当日は、子ども会、えきさん会（老人会）、婦人部など総勢六十余名が集まり、もちをつき全戸に紅白もちを配りお祝いしました。

集会所ができたおかげで、その後は、イベントも、数多く開催され、「町内会文化祭」、年末の「もちつき」、年始の「トンドさん」を開催しました。

集会所竣工式のもちつき

むろん年度末総会も以前のように他の場所を借りる必要はありません。

そして、今年の秋は、「防災運動会」という新しい試みを行ってみました。それは、昨年度より、市全体として防災の強化を勧めている中で本町内での設備、および認識の不足を痛感したからに他ありません。新防災会長のもとに、春より準備に取り掛かり、夏には、救急法の講習も受けその準備に備えました。その結果、運動会当日は、約百人の住民が避難を兼ねて、湖山小に徒歩で行き、「救急隊出動せよ」、「バケツリレー」など**競争しない運動会**に参加しました。来年も、改善した競技を準備し、皆で**自助・共助**のできる町になることを目指したいと思います。

平成27年度 全国自治会連合会 石川県金沢大会の概要報告

昨年三月に北陸新幹線が金沢まで開通し、大勢の観光客で賑わい、自然豊かで美しいまちなみが今に残る金沢。

平成二十七年度全国自治会連合会の全国大会が、昨年十月二十七日に石川県金沢市において、三十一都道府県の役員等関係者約九百三十五名（うち鳥取県自治会連合会七名）が集い、盛大に開催されました。

大会は四部構成で進められ、パイプオルガンのウエルカム演奏の後、第一部式典は、開会のことばに始まり、全国自治会連合会の鈴木会長のあいさつに次いで開催地の石川県知事及び金沢市長から、歓迎のあいさつをいただきました。

引き続き、内閣総理大臣のメッセージ披露の後、全国自治会連合会表彰七十名、創立三十周年記念特別功労感謝状三十八名に、住民自治の振興発展に尽力した功績により、表彰状が授与されました。鳥取市からは、大西副会長が栄えある賞を受賞されました。

続いて、大会宣言が全会一致で採択され、平成二十六年秋の叙勲及び平成二十七年春の叙勲（十名）の紹介、次期開催地（宮城県仙台市）会長あいさつの後、第一部は閉会しました。

第二部の特別講演会では、「金沢のまちづくりとコミュニティ」と題して、前金沢市長の山出　保氏による、災害時における地縁・血縁社会の役割など協働社会の核は町内会であると丁寧な講演をいただきました。

第三部は、加賀温泉郷のおもてなし～レディカガ」の取り組み～、白山市文化協会の取り組みについての活動報告がありました。

第四部では、会場を移し、伝統芸能の金沢素囃子など格調高い芸を堪能し、また浅野太鼓の快活で力強い音には誰もが魅了されました。各県参加者との情報交換や交流も深める事ができ、大変有意義な大会となりました。

編集後記

第二十号自治連だよりは、ページ数も増しより多くの地域活動が紹介できたことをうれしく思います。ご協力いただいた関係各位に、心から感謝申し上げます。

現在、私たちをとりまく環境はめまぐるしく変化しております。各地区で抱える問題もそれぞれ違うと思いますが、活発な意見交換のもと、解決の糸口が見つかれば、自治連の目指す「住みよいまちづくり」に一歩近づくものと思います。これからも会員の皆様のご意見、ご感想をいただきながら、充実した自治連だよりにしていきたいと思いますので、ご協力よろしくお願いします。

（広報委員長　村上）